

社会－3（第4学年） 学んだことを振り返り自分の思いや考えを表現する事例

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 事故から人々の安全を守る</p>												
<p>2 単元の目標 事故から地域の人々の安全を守るための警察を中心とした関係機関の取組や地域の人々の協力活動の様子を調べて、安全を守るための関係機関や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。</p>												
<p>3 評価規準</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】 地域社会における事故の防止のための諸活動に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員として地域の人々の安全な生活の維持について考えようとしている。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】 事故の防止のための警察や地域の取組について学習問題を見いだして追究し、人々の安全を守るための関係機関の働きと地域の人々の工夫や努力について思考・判断したことを適切に表現している。</p> <p>【観察・資料活用の技能】 事故の防止のための諸活動の様子を的確に見学、調査したり、具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。</p> <p>【社会的事象についての知識・理解】 事故を防ぐために警察署と地域の人々が協力して工夫や努力をしていること、事故が発生したときには関係諸機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを理解している。</p>												
<p>4 教材</p> <p>私たちの住む町では、近年、事故件数は減少傾向にあった。しかし、バイパスの完成で道路が良くなったことにより、スピードを出しやすい環境ができた。また、大型ショッピングセンターが完成したことにより、交通量が増加した。このため、平成21年度は76件増の468件の交通事故が発生した。死者は10名で、県ワースト1位であった。そのような状況にあつて、町では交通安全への多くの取組がなされている。それらを調べていくなかで、自分たちの安全な生活は、多くの人々の工夫や努力によって成り立っていることを、児童 にしっかりと考えさせるようにする。</p> <p>町には5年前、新しい信号機が増設された。それを単元の中で取り上げることで、地域住民の交通安全への強い願いとともに、警察署と町の協力によって交通安全が守られたことをつかませる。また、この信号機の点灯式には、本クラスの児童も参加した。自分たちの生活と関連付けながら学ぶことができる教材である。</p>												
<p>5 主な学習活動</p> <p>(1) 単元の指導計画（全10時間）</p> <table border="1" data-bbox="199 1429 1481 1937"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1429 327 1496"></th> <th data-bbox="327 1429 1018 1496">学習活動</th> <th data-bbox="1018 1429 1481 1496">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1496 327 1592">第1次 (2)</td> <td data-bbox="327 1496 1018 1592">○交通事故とはどんなものかを具体的に考える。</td> <td data-bbox="1018 1496 1481 1592">・ニュース映像を紹介し、イメージをもたせるようにする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1592 327 1720">第2次 (7)</td> <td data-bbox="327 1592 1018 1720">○町で交通事故が減った理由を考える。 ○交通事故を防ぐための取組について予想する。 ○道路標識や設備を調べる。 ○警察署や警察の人の働きについて調べる。 ・事故の防止、防犯のための取組 ○地域の人々の働きについて調べる。</td> <td data-bbox="1018 1592 1481 1720">・調べて分かったことを図表で分かりやすくまとめさせる。 ・事実だけで終わらないように、「なぜ～のか。」などと発問し、話し合いで考えを深めながら調べ活動を進めるようにする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1720 327 1937">第3次 (1)</td> <td data-bbox="327 1720 1018 1937">○新しい信号機ができたわけについて考える。本時 ○町で交通事故が増えてきたことを知り、交通安全のため、自分たちでできることはないかを考え、実行する。</td> <td data-bbox="1018 1720 1481 1937">・根拠を明確にした話し合いにする。 ・学んだ事実を理由にして自分の考えをまとめ発表させる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本時の学習（9／10）</p> <p>①目標 新しい信号機ができた背景には、交通事故が多発したこと、警察・町・地域の協力があったことを考えるようにする。</p> <p>②展開 ○新しい信号機について写真で確認する（点灯式の様子も加える）。 ○新しい信号機ができたわけについて予想する。 ○地域の区長さんの話を聞き、分かったことや思ったことについて話し合い、まとめる。</p>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次 (2)	○交通事故とはどんなものかを具体的に考える。	・ニュース映像を紹介し、イメージをもたせるようにする。	第2次 (7)	○町で交通事故が減った理由を考える。 ○交通事故を防ぐための取組について予想する。 ○道路標識や設備を調べる。 ○警察署や警察の人の働きについて調べる。 ・事故の防止、防犯のための取組 ○地域の人々の働きについて調べる。	・調べて分かったことを図表で分かりやすくまとめさせる。 ・事実だけで終わらないように、「なぜ～のか。」などと発問し、話し合いで考えを深めながら調べ活動を進めるようにする。	第3次 (1)	○新しい信号機ができたわけについて考える。 本時 ○町で交通事故が増えてきたことを知り、交通安全のため、自分たちでできることはないかを考え、実行する。	・根拠を明確にした話し合いにする。 ・学んだ事実を理由にして自分の考えをまとめ発表させる。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点										
第1次 (2)	○交通事故とはどんなものかを具体的に考える。	・ニュース映像を紹介し、イメージをもたせるようにする。										
第2次 (7)	○町で交通事故が減った理由を考える。 ○交通事故を防ぐための取組について予想する。 ○道路標識や設備を調べる。 ○警察署や警察の人の働きについて調べる。 ・事故の防止、防犯のための取組 ○地域の人々の働きについて調べる。	・調べて分かったことを図表で分かりやすくまとめさせる。 ・事実だけで終わらないように、「なぜ～のか。」などと発問し、話し合いで考えを深めながら調べ活動を進めるようにする。										
第3次 (1)	○新しい信号機ができたわけについて考える。 本時 ○町で交通事故が増えてきたことを知り、交通安全のため、自分たちでできることはないかを考え、実行する。	・根拠を明確にした話し合いにする。 ・学んだ事実を理由にして自分の考えをまとめ発表させる。										

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第3学年及び第4学年の内容（4）では、「地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする」、「ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」、「イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること」と示されている。また、第3の指導計画作成上の配慮事項として「観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること」が示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現することができるようにする」ことが示されている。

本事例では、話し合い活動において「考えたことを表現する」際には、意見や考えの根拠を明確にすること、互いの意見の共通点や相違点を明確にすることが大切であると考えた。そこで、第2次で道路標識や設備などについて話し合う活動を設けた。児童は、話し合いを通して「標識が多くあって交通事故に備えていることは分かる」しかし、「どういう基準で道路標識や設備などを設置しているか分からない」という結論に至る。そこで、「なぜ（ここに）カーブミラーはあるのか」「絶対必要なのか」という問いを投げかけて、自分の考えを根拠を明確にしてもたせ、意見交換を通して、さらに考えを深めさせることをねらった。

【言語活動の充実の工夫】 —既習の内容やゲストティーチャーの話を振り返って考え表現する—

社会科は、社会的事象の特色や、人、自然、社会制度などの相互の関係を学ぶ教科である。そのため、事実と事実をつなげ、事実から思考を深めていくことが大切である。学んだこと（社会的事象やその意味など）を振り返り、目の前にある事実とつなげながら考えていくことで思考が深まり、新たな理解につながるからである。そこで、本時では次の二つの手だてをとった。



○新しい信号機ができたわけについて、既習の「交通事故を防ぐ取組」を思い起こして予想させて説明させた。

○授業の終わりに「ふりかえり文」を書く時間を設け、自分の思いや考えをまとめさせた。

（継続的な取組）

既習の知識とつなげた予想としては、「道路があって車も多く走っていて、交通事故がたくさん起きたから、信号ができたのではないか。」「交通事故はとても怖い。そんな怖い事故できっと命を失った人がいたんだと思う。だから、信号機をつけたのではないか。」「カーブミラーなどの設備も事故を防いでいた。この信号機もきっと事故を防ぐためにつけたのだと思う。」などが挙げられた。

続いて、区長さんから話を伺った後、分かったことや思ったことについて話し合った。話し合いでは、「警察と町が話し合って、信号機がついたんだ。」「信号機は、区長さんたちの要望もあってついたのだ。ありがとう。」というように、事実を踏まえた意見を多く受け止めることができた。

また、振り返りの記述では、自分の思いを明確に表現している児童が多く見られた。「交通事故の写真を見て、あんなに固い車がこなごなになるなんて思ってもいませんでした。交通事故でなくなる人も多いただろうなと思いました。私は今日のこわい思いを忘れることはないだろうと思います。よくニュースで交通事故の写真や映像をみます。すごくこわい写真を見ると、ときどき目をおおってしまいます。命は一つしかないのが大切です。私の命は私の家族がくれた宝物なので、その宝物をむだにしたいくないです。」

これは交通事故の写真を見たときの感想を中心にまとめたA児のふりかえり文である。このような振り返りを一つ一つ積み重ねていくことで、児童自身が自分の思いや考えを自覚して確かなものにし、そのことにより発言や記述内容もさらに豊かになっていくものと考えられる。

